

人間形成の基礎作り

社団法人横浜市幼稚園協会会長

金子 禎
かねこ ただし



形成の上で極めて大切な時期と考えられるからです。幼児期は子どもの身体的発達的基础ができ、情緒的発達や知的発達も著しく、言語活動も活発になります。その上、行動範囲も拡大し、社会性も急速に発達します。更に、日常の基本的な生活習慣が形作られ依存的な気持ちからだんだんに自立の方向に成長していきます。植物に例えれば将来大樹になるための根っ子作りです。建物ならその土台作りです。

さて、今まではご両親の傍で思いのままに過してきた生活から、はじめて幼稚園という集団の生活に入るわけですが、幼稚園とはどんなところでしょうか。幼稚園とは学校教育法で定められている通り三歳から小学校入学までの間の子どもたちの集団で、いろいろな面を助長していく「教育の場」であるのです。

幼稚園での生活の中心は「遊び」です。遊びながら身近な人や物事に興味を持ち、社会性や自主性その他、子どもの成長にとって大切なことを身に付けていく所なのです。その指導は一定の資格を持つ教育の専門家である教員によって集団生活を通して計画的・組織的に行われています。小学校の様な教科学習ではありませんが年間、ヶ月、一週間、一日の指導計画(カリキュラム)があり、それに

基付いて保育をしています。これは各クラスの子どもの達の発達の仕方や興味によって柔軟に対応できるように組まれています。

家庭を離れて集団生活をするものの必要性は、それぞれ異なるタイプの子どもたちがお互いの刺激を受けながら、一人では気付かなかったことに気付いたり、少ない人数ではできないことに取り組んだりします。そこで一緒に楽しんだり困ったりする中から心の成長をしていきます。時にはおもちゃを取られたり、作った積み木を壊されたりして喧嘩になることもありますが、そこから新しいルールを学び取っていくのです。

このように、幼稚園は子どもたちに集団生活を通して幼児期に経験しておくことが望ましい諸々の直接的な体験や活動を十分持たせることによって全人格的な成長発達を目指し、人間形成の基礎作りを行っています。

家庭と幼稚園は車の両輪です。お互いに子どもの健やかな成長のために頑張りたいと思います。

横浜市幼稚園協会は父母の会連合会と共に子どもたちが明るく逞しく心豊かに成長するように、幼児教育の振興に努力しております。今後ともご理解とご協力をお願いいたします。

未来の世代を育むまち 「よこはま」を目指して

横浜市長
林 文子
はやし ふみこ



保護者の皆様におかれては、子どもたちが初めて集団生活を体験する幼稚園へわが子を送り出す日を、大きな期待と少しばかりの戸惑いを胸に心待ちにしておられることと思います。

人と人とのふれあいが少なくなってきたといわれる今日、周囲の人間関係や季節の事象に自ら積極的に触れるなど、数々の学びの経験ができる幼稚園の役割はますます高まってきています。特に、それぞれの園における幼児教育の理念に基づき、先生方ひとりひとりが子どもたちの感性を豊かに育むとともに、広い園庭など恵まれた環境を活かすことができる幼稚園は、地域の子育て支援の貴重な資源であると思っています。

また、就労しながらもお子さんに幼稚園で幼児教育を受けさせたい等の保護者の方々のニーズに応えるため、正規の教育時間の前後(朝夕)と夏休みにお子さんを預かる「横浜市私立幼稚園預かり保育事業」に、市内二八九園中七五園に御協力いただいています。今後、子育てのさまざまなニーズに柔軟に対応していくために、幼稚園の役割はますます重要になると考え

ています。

さて、本市ではこの六月に「次世代育成支援行動計画」かがやけ横浜こども青少年プラン』後期計画』を策定しました。生まれる前から乳幼児期そして青少年にいたるまでのすべての子ども、青少年とその家族を対象として、未来の世代を育むまち「よこはま」の実現に向け、未就学期の保育と教育の充実などさまざまな取組を進めていきます。そうした中、子ども自身の健やかな育ちを支えるためには、家族はもちろん、幼稚園の先生方、地域の人々そして行政が手を携えた社会全体の取組が大切です。

私は、現場を訪れ先生方の情熱に触れるたび、未来を創り上げる「よこはまの子どもたち」の力強さを感じています。幼稚園で生きる力の基礎となる子どもたちの生活習慣や社会性を育んでいくことは、将来の人間形成の大切な礎となると思います。

元気に駆けていく子どもたちの未来が、明るく希望に満ちたものとなるように、今後も総合的・継続的な観点から、子育て家庭や子どもにやさしいまちづくりを進めていきますので、皆様のご支援とご協力をお願いいたします。

特集

入園するお子さんをお持ちの保護者の方へ



幼稚園とは どんなところ

初めての集団生活

子どもが初めて家庭から外に出て、集団生活をする場、それが幼稚園です。幼稚園は、満三歳から小学校入学までの子どもたちを教育します。そこには当然ルールもあります。が、おもちゃなどを介してお友だちとのぶつかり合いやケンカなども起こりえます。しかし、家庭だけでは味わうことのできない、魅力的な体験もいっぱいできます。

幼稚園は小学校以降、生涯にわたる社会性・人間形成の基礎を培うための大切な教育の場です。

遊びから学ぶ

幼稚園での生活の中心は遊びです。同年齢や異年齢との遊びを通して友だち関係を育てたり、物事に興味を持ちたりしながら、社会性や自主性など、子どもの成長にとって大切なことを身につけます。

また、幼稚園の指導計画は、子どもたちが楽しく活動しながら、無理なくより良い成長・発達を促すように組み立てられ、先生は

人ひとりの子どもに対応できる柔軟な指導案を作成しています。

適切な指導のために

子どもの個性はそれぞれに違っています。一人ひとりの個性を尊重し、伸ばしていけるように、先生は個々の子どもの個性を把握し、見守ったり支援したりしながら適切な指導を行っていきます。そのためには「ご家庭との連携も大切になります。お子さんの成長を共に喜びあい、適切な時期に次のステップに踏み出せるよう伝えあいましょう。そして、先生も努力し、研修を重ねています。温かい目で見守りながら子どもたちの成長を育んでいきましょう。

出合いの場

子どもたちは、新しい園生活の場で保護者以外の信頼できる大人としての先生と出合い、多くの友だちと出合い、大好きな遊びや絵本とも出会うなど、たくさん体験をします。また、同時に保護者の方も園での様々な活動や人とのふれあいの中で、学び合ったり、自分の子育てを振り返ってみたりすることもできます。地域とのつながりを深め、我が子だけでなく大勢の子どもたちを見守るネットワークづくりに参加してみませんか。

入園の前に

園生活に早く慣れるために

子どもたちの中には、新しい環境にすぐに慣れる子もいれば、ゆっくり慣れていく子もいます。入園までに「家庭で次のような配慮をしておく」と、よりスムーズに園生活に溶け込み、楽しい園生活を送りやすくなるでしょう。

1 早寝、早起きの習慣をつける

毎日の生活の中で、寝る時間・起きる時間は決まっていますか。生活のリズムをつくることが大切です。

朝の空気を全身に吸って、今日一日の体調を整えるようにしましょう。

子どもは寝ている間に成長ホルモンがたくさん分泌されると言われています。この時期にはお子さんの成長のために睡眠時間を充分とった方が良いでしょう。

2 規則正しい食事の習慣をつける

食事はある程度の時間内でとりましょう。いつまでも遊びながら食べるような習慣は、

少しずつ直していきましょう。朝食は一日の元気の素です。朝食をしつかりとりましょう。

3 排泄、手洗いの習慣をつける

オムツからパンツへと、練習しましょう。できるだけ一人で排泄や手洗いができるようにになると、自信にもつながります。

4 衣服の着脱が一人でできるように

一人で脱いだり、着たりできるように、ボタンのついたシャツやズボンなど、ふだん着ている洋服で練習してみましょう。

5 言葉で意思表示ができるように

言葉で自分の意思が友だちに伝えられるとコミュニケーションも多くなります。例えば、朝、笑顔で挨拶することから始めて、言葉が育つように家庭でも豊かな会話を心掛けましょう。

あせりは禁物

生活習慣すべてができていなくても心配はいりません。大切なのは、そうしようとする気持ちを持たせることです。そして、子どもが一つでもできた時は、「よくできるようになったね」と褒めてあげてください。その

一つひとつの積み重ねによって子どもは自信がつき、自主性も芽生えてきます。「これができない」と幼稚園には行けないよ」とか「もうすぐ幼稚園なんだから一人でやらないな」と言い過ぎて、不安でいっぱいにならない配慮をお願いします。

生まれてから、わずか三年、あるいは四年のお子さんです。赤ちゃんだった我が子が「ここまで成長した」ということをご家庭で喜び、早く早くとあせらせたりせず、ゆとりを持って、お子さんが入園の日を楽しみに待てるようにしてあげてください。



三歳児

依存から自立へ

「三つ子の魂百まで」という諺があります。基本的な信頼関係がきちんと構築されるには、三歳くらいまでの保護者のかかわり方がとても重要だといわれています。この時期に温かな家庭で自分の欲求を十分にかなえられた(十分に依存体験をした)子どもは、自立が早いのです。

子どもは、周囲との信頼感を基礎に自立していきます。実際、そのような環境で育った子どもたちは、幼稚園という初めて体験する集団にも抵抗なく入っていくようになります。とはいえ、入園当初の子どもたちは緊張や不安もいっぱいです。しばらくの間、泣いて保護者の方から離れられなくても、「どうしてうちの子はできないの?」とは思わずに、長い目で他の子と比べずに温かく見守ってあげましょう。

子どもつばやき

転んでひざをすりおいた先生に
子ども「へえ〜大人でもそつゆう
ことあるんだあ」

子どもつばやき

オクラでスタンピング
先生「この野菜はなあに?」
子ども「赤ちゃんのタケノコ」
子ども「痩せちゃったピーマン!!」

人とのつながり感を...

子どもは、二歳になると「お友だちが欲しい」という感情がでてきて、外の世界に興味をもつようになります。そういった時期に集団生活することは、とても意味があることです。

幼稚園で友だちと遊び、「楽しさ」や「喜び」を共有し分かち合うことは、将来、社会に出て生活していくための基礎を築くうえで、とても大切な経験です。

しかし、まだ人とかかわるといふ経験は少なく、入園当初は、友だちとおもちゃの取りあいなどになることがあります。これは集団で生活すれば誰もが経験することです。家庭では、「交替」「待つ」「並ぶ」「順番」といったことが不要だった一人遊びから、幼稚園ではたくさんさんの友だちと遊び、経験することで、人とかかわり方を学び、徐々に集団で生活するルールの必要性を感じながら身につけていくのです。

また、最初は一人遊びが中心でも、友だちと絡に生活する中で、気の合う仲間をみつけ、お友だちについていいな、「一緒にいると楽しい」といった感情が芽生え、人とのつながりの基礎ができあがってくるのです。別の角度から見ると、このような変化は、三歳児の最も顕著な特徴である自己中心性が影を潜め、協調性が芽生えてくる過程と言えます。遊びの中から育っていく人とのつながりは、この時期に最も必要な経験です。学ぶ力や慣れる力が旺盛な三歳児だからこそ、幼稚園ではそのような経験が、たくさんできるような環境を整えてあげたいと思っています。



言葉の発達が遅いのは心配です。



言葉の習得について考えてみると、泣くことで自分の思いや気持ちをお母さんに伝える乳児期から、幼児期にかけて「あーあ」「ブーブ」、更に二語文、三語文となり言葉や身体を使って伝えるようになります。この時期に何を伝えようとしているかをくみ取り言葉で受け止め気持ちに共感してあげることが大切です。子どもたちは思いを受け止めてもらえたことで気持ちも安定します。言葉や表情で伝えることでコミュニケーションがとれるようになり、信頼関係が生まれ、更に言葉の習得に繋がっていきます。幼稚園に入園される頃までには友だちとの会話がある程度できるようになってきますが、育った環境や家族構成などによっても個人差があります。

日常生活において子どもと二対二で目を見て話す、歌や絵本などによって言葉に興味を持たせていくことも言葉の習得の一つの方法です。言葉のキャッチボールができるといいですね。

大人が先回りして手を出さずに、今どうしたいのかを自分の言葉で伝えるよう促し、伝えられた時にはしっかりと受け止めてあげることが大切です。言葉が伝わる喜びを味わえるようにしてあげましょう。

成長と共に子ども同士遊びを通して言葉で自分の意思を相手に伝えるようになり友だち関係も広がってきます。私たち大人は子どもたちのためにも正しい日本語を話して聞かせていきたいですね。

ご心配な方は、早めの対応や指導により効果があがることもありますので、悩んでないで園や専門機関にご相談ください。



子どもつばやき

登園時...
先生「おはようございます。
お預かりします」
母「お願ひします」
子ども「おあまがひなれまます」

子どもつばやき

先生「てんとごむし、ごかないね。
おひるねかな?」
子ども「先生のホクロをみて」
「おひるねじているね。
ごまごごね」





幼稚園に楽しく、スムーズに通えるかどうか心配です。

A 今まで家庭で大切に育てられたお子さんにとって、はじめて家庭から離れて、「幼稚園」という大勢のお子さんが集う環境に入るのは、とても大変なことなのです。誰もがはじめから楽しく通えるというわけではありません。

園の先生方は、子どもたちが一人ひとり安心して園生活を過ごせるように見守り、手助けをしています。子どもたちは、日を追うごとに園の中に自分の安心できる場所を見つけられるようになり、お友達にも目が向き、幼稚園生活を楽しむようになります。

大人の不安が子どもの不安を誘うこともあります。大らかな気持ちで、お子さんと共に入園の日を楽しみにしていただきたいと思えます。

まだオムツがとれていません。

A 入園前にオムツがとれていないことを心配するお母さんが増えてきています。

あまり神経質にならないようにしましょう。ご家庭で無理のない範囲で少しずつパンツをはいたり、トイレに行く習慣をつけてあげるとよいでしょう。

幼稚園の先生方は「おもらし」の処理や対応に慣れていきます。失敗しても大丈夫です。安心してください。他のお子さんがトイレに行く様子を目にしたりするうちに少しずつ排泄の習慣も身につけていくものです。

どうしても心配な時は、幼稚園の先生に相談してみてください。幼稚園とご家庭とで協力しながら習慣づけていきましょう。



子どもつつぶやき

桜の花びらが舞うのを見て「ほらかぜが春をはこんでいるよ」

四歳児

砂場でだんごを作ったり、型に砂を入れてプリンを作ったりなどの一人遊びが主で、一緒に遊んでいるように見えても、かわりがあり深くないことが多い三歳児の頃に比べると、四歳児は「一緒に遊ぼう！」とか「仲間に入れて」と自ら声をかけ、徐々にではありますが、自分から友だちとの関係を求める姿が多く見られるようになります。四歳児は、社会性の芽生えがいろいろな面で見られるようになる頃なのです。

感情のコントロールも少しずつできるようになってきて、自分の思いを相手に伝え、相手の思いも受け取る「わたしとあなた」の関係は、四歳児の頃に大きく育っていきます。



子どもつつぶやき

朝の園庭で

A君「ぼくは元気いっぱいだー」
B子「わたしも電気いっぱいだー」
A君「えー!!!」

友だちとのかわり

友だちとのかわりが持てるようになってくると、気の合う友だちとの行動が多くなってきます。しかし関係の深まりはぶつかり合いや、もめごとにもなりますが、一緒に力を合わせて、いろいろなことに取り組めるようにもなってきました。例えば、砂場で大きな山を作るときに、穴を掘る子、固める子など、お互いに役割を分担したり、他の友だちとも協力して遊びを広げたり深めたりしていきます。

仲良しの友だちとの関係だけでなく、グループで遊ぶ場面が多く見られるようになります。それぞれが協力しながら楽しい活動が展開されます。また楽しい体験だけではなく失敗やもめごとを通して、遊びのルールを作りだしていくような力もついてきます。

集団生活の中で

子どもは遊びを通して多くの仲間と出会い、様々なかわり合いを体験することで、豊かな心身の成長を得ることができるのです。

幼稚園では、いろいろなタイプの子どもたちが互いに刺激を受け合い、一緒に楽しんだり、困ったり、支え合ったりしながら共に生活を営んでいきます。

これらの経験を通して、自分の思い通りに





**子どもがアレルギー
体質なので、食べ物に
制約があり、とても心
配しています。**

A 幼稚園では、お弁当や給食などの食べることもあります。お弁当の場合はそれぞれの家庭で工夫をしていただけかもしれませんが、給食やおやつでは、みんなと同じものを口にしてしまうことも考えられます。「食べてはいけないもの」「多撰取してはいけないもの」やその症状など、必ず幼稚園にお知らせください。

また、動物アレルギー、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎等についても園にお伝えください。お子さんの健康状態を考えて、いろいろと対応してくれるはずです。



子どもつぶやき

「きのうはナキナキ幼稚園だったけど、きょうは『〇〇幼稚園だね』」



**友だちと仲良くでき
るか心配です**

A 幼稚園は、それぞれ違った家庭環境で育ち、性格も違う同一年齢の子どもがたくさん集まって生活する集団の場です。そこには、集団生活を送るために必要なルールが生まれてきます。

「自分だけは」という考えが通用しないことに戸惑い、友だちと上手に遊ぶことができない子どもも少なくありません。しかし、集団生活に馴染んでいくうちに、子どもたちも自分のペースで友だちを作るようになります。先生はクラスの中でみんなが楽しく遊べるように配慮します。遊びに入りたそうなきには、その時を逃さず声を掛けたり、好きなものが同じ子ども同士を引き合わせてみますりします。

こうして友だちとの遊びは活発になっていきますが、時には「今日ね、〇〇ちゃんにいいめられたの」と泣いて帰ってきて驚くこともあるでしょう。でも、実際に幼稚園で起こったことはとてつと…

**★おもちゃの貸し借りの際に適切な言葉が
言えず、黙って取ってしまう。取られた子**



子どもつぶやき

子ども「たんほほは、夕方になると寝ちゃったよ」
子ども「えーお風呂に入らないで寝ちゃったの？」

は驚いて相手を叩いたり、いじめられたと言ったのよ。

**★遊びに入りたいのに「入れて」が言えず、
どっさりよいか分からずに、遊びに入れ
てくれないと訴える。**

★偶然足や身体がぶつかったことも「蹴られた」「押された」などと勘違いする。

**★遊びの中で、相手が自分の思い通りに行動
してくれないことが我慢できず「〇〇ちゃ
ん、嫌」「もう遊ばない」などと言う。**

こうしたもめごとの原因は、人との付き合い方がわからずに起きる一時的なものです。そして、社会性の発達過程の一場面であって、いわゆる「いじめ」とは全く質が違います。当事者同士の話をよく聞き、確認し合い、お互いが納得すれば解決です。

言葉が言えずに顔や手をつかんで意思表示をする子もいますが、いろいろと経験することが、子どもの成長につながります。良いこと・悪いこともだんだんにわかってきます。おらかな気持ちで見守ってください。



**落ち着きがなく、みんな
と同じ行動ができ
るか心配です。**



A 家庭から幼稚園生活に入ったばかりの頃は、子どもたちにとって全てが新しいことばかりです。環境が変わったことで落ち着かなかつたり、遊びに夢中になつて周りのことに気づかず、みんなとは

違うことをしているといったことはよくあります。

子どもは好奇心が旺盛なので、一見すると落ち着きのないうような行動に映るかもしれませんが、しかし、その一方では、自分で興味を持ったことに対しては、大人が驚くほど集中して取り組むことができます。落ち着かないということは、物事に集中できていないように感じますが、見方によっては、何にでも興味を持っていることでもあります。自分の興味を持ったことをしながら、また、十分に満足するまで遊ぶことで、徐々に落ち着いてきます。

幼稚園では遊びを通して、子ども同士のかかわりを見していきます。好きな遊びを一緒にしていた子と仲良くなり、その子と一緒にいることが楽しくなつてきます。そこからみんなと一緒に過ごすことができるようになっていくということもあります。いづれにせよ、すぐに落ち着かなくてはいけないということではありません。心配ならば、幼稚園の先生に相談しながら様子を見ていくのがいいでしょう。



アタリ画像

子育てを考える

子どもの体力づくり

四月には、いよいよお子さんの入園ですね。保護者の方にとっても嬉しさ半分、不安が半分の気持ちでいらっしゃるかと思います。

さて、お子さんの様子で「疲れた…」「がくせになっていたり、すぐに「歩くのイヤ」、「抱っこ〜」と動くことをおっくうがっていませんか？
そして、「うちの子、体力なさ過ぎなのでは…」と心配をされていませんか？

行動体力と防衛体力

体力には、筋力や持久力などの『行動体力』と、外界から体を守る『防衛体力』があります。疲れやすい、風邪をひきやすいというのは、防衛体力がないためです。また、張り切って動く時や落ち込んで動きたくない時など、体力には意欲やストレスに対する抵抗力など『心』の要素も含まれます。

幼児期に体力をつけるということは、行動体力も防衛体力も心も育むことです。それは、特定のスポーツなどの習い事をさせることではなく、

行動

幼児期に必要なことは『走る』『投げる』『跳ぶ』『蹴る』『支える』などの多様な動きを身につけることです。これらは、自由な遊びや日常生活の中で身につけられるものであり、例えば、「砂遊び」なら『立つ』『座る』『水を運ぶ』『掘る』などのことができず、「布団を敷く、畳む」習慣があれば、『持ち上げる』『渡す』『運ぶ』などの動作が身につくことができません。

子どもたちの自発的な遊びの中には、多様な動きがたくさん含まれています。しばしば遊ぶ子は、遊びを通して動くことの楽しさや面白さをたくさん経験します。その経験が、行動体力や防衛体力の獲得、そして豊かな心へとつながっていきます。



公園などで積極的に外遊びをしたり、散歩や買い物など意識的に歩いたり、早寝早起き、朝食をきちんと食べるなどの生活リズムを整える等々、日常生活で気をつけることの方が適しています。遊びを通して基本的な動作を経験することであり、トータル的な発達を促すことです。

まずは、生活リズムを整えましょう

最近子どもの体力がますます低下していると言われています。病気への免疫力や体温調節、ストレスへの抵抗力など、防衛体力の低下が抱いているもので、その原因のひとつが生活習慣にあると思います。便利さや効率を求め過ぎる現代社会がもたらした、子どもの生活形態の変化があります。夜型社会が睡眠不足を招き、朝は遅く起きて朝ごはんは抜きのため、エネルギー不足で動けないという生活リズムの悪循環を引き起こしています。まずは、睡眠・食事・運動のサイクルをきちんとしましょう。

そして、何よりも親が子どもと一緒に体を動かすことが大切です。これが、子どもの体力づくりの第一歩です。



怒らないで叱って欲しい、 改めれば誉めてあげよう

三澤内科小児科クリニック
三澤 晴敬

少子化、核家族の影響から子どもへの「躰（しつけ）」がおろそかになつてきている気がする。おじいちゃん・おばあちゃんと同居する家族も減り小言を言う人達も次第に少なくなつてきているのも一因であろう。

30年以上も内科・小児科の患者さんを診ているが毎回様々な子どもたちが来院する。診察中、診察机の引き出しを急に開ける子、椅子に乗つてふざける子、器用な子は椅子に座りながら足を上げて机の引き出しを開ける子ども等色々である。診察が終わつてもいつまでも側にいて話しかける子どももいる。これらの子どもに対して親の態度は3つのタイプがある。

①お行儀が悪くても知らん顔、全く注意しない。

②少しでも気に入らないと怒り続け、時にはすぐに頭を叩く↓その様な子どもは慣れたもので叩かれてもほとんど泣かない。

③余計なことは言わずじつと後方の椅子に座つて見守っているが、態度が悪いと理由を話してきちんと叱る。母親が感情に任せて口やかまし

く言うのは逆効果で怒られ慣れし、益々言うことを聞かなくなる。目を見て同じ目線で真剣に叱れば必ず反省するのが子どもである。放置すれば子どもが親より優位に立ち、ゆくゆくは親の権限もなくなつてしまふであろう。

いつもと違い元気がない子には必ず体温を測つて欲しい。熱があれば入浴・外出を避け早く寝ることによりカゼ程度の病気は治りが早い筈である。是非一家に1つは体温計を備えて頂きたい。

2〜3歳以上の園児、小学生には運動も活発になり大事な成長期を迎えるので必ず朝食を食べさせ、食後は排便の習慣をつけることも重要である。毎朝コンビニのおにぎりや牛乳、バナナでは可哀想な気がする。せめてトーストにジャム、バター等をつけ、ハムや野菜等の上に乗せ牛乳でも温めて送り出す位の心遣いは欲しいものである。和食であれば御飯、卵、海苔、佃煮、おひたし、ミソ汁等、種類は豊富である。朝食抜きということは前日の夕食から翌日の昼食までほとんど何も

食べていない状態であることを忘れて頂きたい。

園や学校で排便を我慢したため腹痛の訴えで来院する子どもが多い。以上少しでも心当たりがあれば就学するまでに習慣づけていただきたい。お母さん達も忙しいことは充分承知しているが、お父さんと仕事を分担・協力して子育てをお願い致したい。

小児の流行病はほとんど春先から夏に多いとされていたが、最近は季節に関係なく発生する様になつてきている。特に種々のウイルス性の病気が多い。手足口病（コクサツキウイルス、エンテロウイルス）、伝染性紅斑（ヒトパルボウイルス）、伝染性軟属腫（軟属腫ウイルス）等いずれも対症療法で大事にはいたらないが、夏特有のプール熱（咽頭結膜熱）は発熱、咽頭痛、結膜炎を起しアデノウイルスにより感染する。プールを介して発症し学校伝染病第2類のため登校（園）は禁止である。水痘ウイルスから感染する水痘症もワクチンの接種で防御率も90%以上の高率になつたが接種し

ても100人に3〜4人は罹患することもあると認識して欲しい。

小児の死亡原因の第1位は新生児期を除けば不慮の事故が一番である。小児死亡における不慮の事故の割合は74%と高い値である。特に年齢が幼いほど家庭における事故が多いので子どもが安全に生活できる環境づくりに気を付けていただきたい。子どもの事故は打撲、擦過傷が多いが致命的なものは乳児では窒息が70%、1〜4歳では溺水、5歳以上では交通事故が急増している。夏の海、河原での水の事故、飛び出しや斜め横断等の交通事故には日頃から約束事や交通ルールの教育が不可欠である。

他人に迷惑を及ぼす振る舞いや最低限のルールを守れない時は決して感情的に怒らず、常に同じ目線で1対1で真剣に叱って欲しい。そして改まった時は心から誉めてあげることが何よりの御褒美ではないかと思う。

情報交換



子どもの様子を伝え合ったり、お互いの意見や考えを出し合い、より良い保育を創造していきます。

家庭との連絡

面談や連絡帳・電話などを通して家庭との連絡を密にします。

子どもたちの楽しい園生活と健康・安全を保障するために先生たちのお仕事は



園舎の安全チェック

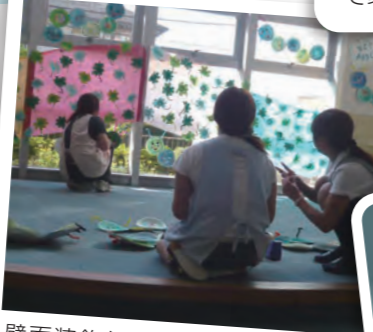
遊具の点検・修理や園庭の安全管理をして子どもたちの元気な遊びにそなえます。

きれいな環境づくり



四季折々に工夫して美しい花壇にします。

楽しい雰囲気づくり



壁面装飾など、季節感や楽しい雰囲気を演出します。

園舎を清潔に



園舎内は子どもたちが安心して気持ち良く使えるようにていねいな掃除は欠かせません。

かたづけ



よりよい保育をめざして



アタリ画像



アタリ画像

園外での実技研修や研修会などに参加し、資質の向上に努めています。

保育活動の準備



保育を楽しくするために、活動の計画を立て、教材の準備や研究を行います。



親子で

作って遊ぼう

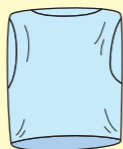


親子でファッションショー ～おしゃれな服を作ろう!～

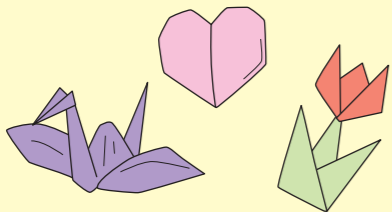
★材料/カラーポリ袋(ゴミ袋の大きさ。色々な色のものが市販されています)
折り紙・包装紙・モール・アルミホイル あまり布
★道具/ハサミ セロハンテープ

〈作り方〉

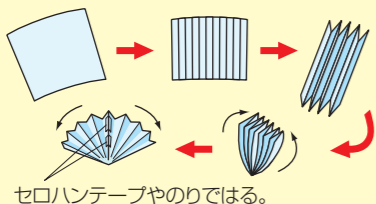
- 1 カラーポリ袋の底の部分に首が入るくらいの切り込みを入れます。
- 2 カラーポリ袋の底に近い部分の左右の輪に、腕が入るくらいの切り込みを入れます。



- 3 折り紙で、花・ツル・ハート・紙飛行機等好きなものを折ってください。
- 4 アルミホイルやモールやあまり布を好きな形に切ったり手で裂いたりしてください。



- 5 折り紙や包装紙を正方形に切ってじゃばら折りにして真ん中をセロハンテープで留め、左
- 6 カラーポリ袋に折ったものや切ったものをセロハンテープで付けます。



- 7 きれいに付けられましたか?でき上がったら、着てみましょう!親子でファッションショーをしてみましょう。

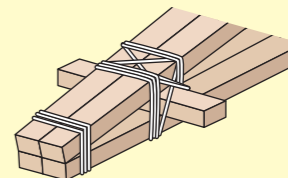
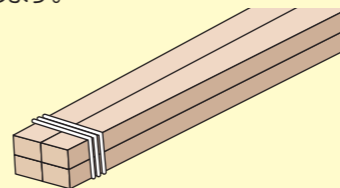


棒高跳び

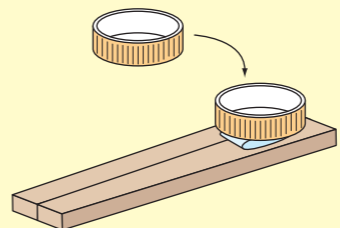
★材料/割りばし:2ぜん 輪ゴム:2本 小さい割りばし(切ったもの)
ペットボトルのふたアルミホイル
★道具/ガムテープ

〈作り方〉

- 1 割りばしの先を2ぜんまとめて輪ゴムで留めます。
- 2 割りばしと割りばしの間に小さい割りばしを挟んで、輪ゴムで留めます。



- 3 留めたほうとは逆の端に、ペットボトルのふたを輪にしたガムテープではりつけます。
- 4 アルミホイルを丸めてボールを作って、飛ばしてみよう!

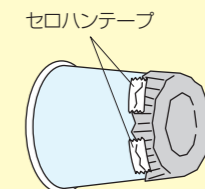
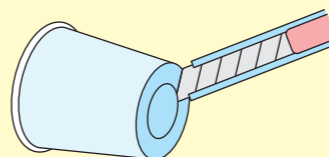


ブーブーコップ

★材料/紙コップ アルミカップ シール アルミホイル サインペン
★道具/セロハンテープ カッターナイフ

〈作り方〉

- 1 紙コップの底を切ります。
- 2 アルミカップを紙コップの底にかぶせて、セロハンテープではりつけます。



- 3 紙コップにシールをはったり、ペンで絵を描いたり、アルミホイルを巻き付けたりして飾ります。
- 4 コップを口に当てて声を出すと、ブーブー鳴るよ!



社団法人 横浜市幼稚園協会とは

明治4年に横浜市中区山手に幼児教育施設が誕生しました。それから今日までの138年の間に多数の幼稚園が横浜市内に新設されました。

横浜市の幼稚園の特徴は、すべてが私立であり、それぞれが特色ある建学の精神をもって教育を行っていることです。言い換えれば横浜に住む幼児の教育は私立幼稚園に任されているということです。その任務の重さを思い、横浜の幼児の幸せを願って、昭和36年、市内の幼稚園が自主的に設立したのが「横浜市幼稚園協会」です。現在263園が加盟し、50年にわたって、より一層、幼稚園教育の質の向上をはかるべく活動を行っています。

幼稚園大会



市内4000名の教職員・保護者が一堂に会し、市長他多くの来賓をお招きして、永年勤続の表彰式を行います。

設置者園長研修会



アタリ画像

幼稚園の役割や、安全管理、幼児期の子どもについて広い視野から、園長・設置者も学んでいます。

教員研修会



先生たちの専門性を高めるために、市や区の単位で研究・研修活動を行っています。また年に2回市全体の教員研修会を行います。

教育研究大会

協会加盟の2500名の教職員が県民ホール(大ホール)にて全体会を行い、9つの分科会に分かれて研究の発表を行います。



アタリ画像



アタリ画像



アタリ画像

その他

- ◆幼稚園・保育園・小学校の連携をはかる研修会
- ◆新規採用教員研修会
- ◆保育実践事例研究委員会
- ◆カウンセリングの研修会
- ◆保育力キャリアアップ研究講座
- ◆特別研究委員会

お知らせ

満三歳児入園について

文部科学省の方針に基づき満三歳誕生日を迎えた日から入園できることになりました。しかし、各園において受け入れ体制が異なる場合もあります。希望される幼稚園にお問い合わせください。

預かり保育について

保育終了後、保護者の都合によつてお子さんを幼稚園で預かる制度です。現在、横浜市幼稚園協会加盟園の約半数が実施しています。詳しくは幼稚園にお問い合わせください。

障がい児保育について

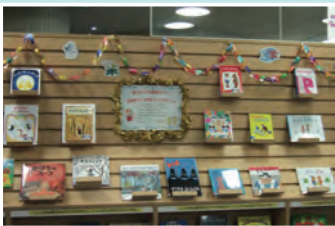
健常児と共に育つ環境を大切にして統合保育の実践をしている幼稚園も多くなってきました。各園にご相談ください。

子育て教育相談

協会では、保護者の皆様方の子育てに関する相談を臨床心理士が毎週火曜日に電話でお受けしています。

10時～15時
☎045-534-8837

絵本贈呈式



横浜開港150周年を記念して、幼稚園協会と共に18区の図書館に150冊ずつの絵本を贈呈しました。

父母の会の活動

- 協会加盟の幼稚園により、幼児の幸福を願い、幼児教育の発展を目指す目的をもって、横浜市幼稚園父母の会連合会を組織しており、次のような実績をあげています。
- 県・全国の連合会と連携した活動により、幼稚園園奨励補助金の獲得と増額に努める。
- 横浜市単独の教育費軽減のための補助金の獲得に努める。
- 幼稚園協会と協力し、幼稚園教育の振興に努める。
- 地域父母組織活動強化補助事業として、各区単位でも講演、研修活動などを行っている。

横浜市から保護者に補助金が出ます

この補助事業は、私立幼稚園に通っている園児の保護者にかかる保育料の負担を軽減するためのものです。毎年六月頃、幼稚園を通して横浜市に申請書を提出し、年末近くに補助金が出ます。同じ世帯で小学校2年生から3年生のお子さん(兄弟)がいる場合、補助額が変わります。

平成22年度横浜市私立幼稚園就園奨励補助金

(単位:円)

区分	補助の基準	小学校1年生から3年生の兄弟がいない場合		小学校1年生から3年生の兄弟がいる場合	
		※ 在園児区分	補助額(年額)	※ 在園児区分	補助額(年額)
A	生活保護を受けている世帯	第1子	220,000	第1子	240,000
		第2子	260,000	第2子以降	299,000
		第3子以降	308,000		
B	平成22年度の市民税額(均等割と所得割)非課税の世帯	第1子	194,200	第1子	218,000
		第2子	245,000	第2子以降	299,000
		第3子以降	308,000		
C	平成22年度の市民税所得割非課税の世帯(均等割のみ課税)	第1子	190,000	第1子	218,000
		第2子	245,000	第2子以降	299,000
		第3子以降	301,000		
D	平成22年度の市民税所得割345,000円以下の世帯	第1子	132,200	第1子	155,000
		第2子	203,000	第2子以降	299,000
		第3子以降	299,000		
E	平成22年度の市民税所得割183,000円以下の世帯	第1子	107,200	第1子	131,000
		第2子	179,000	第2子以降	299,000
		第3子以降	299,000		
F	平成22年度の市民税所得割183,000円を超える世帯	第1子	48,000	第1子	80,000
		第2子	80,000	第2子以降	112,000
		第3子以降	112,000		

※在園児区分/同一世帯(保護者も同一)から、同時に複数の幼児が私立幼稚園に通っている場合、幼稚園に通っている最年長者が「第1子」、次年長者が「第2子」、3人目以降が「第3子以降」の在園児区分になります。また、保育所・認定こども園に在籍する兄弟がいる場合、幼稚園児については「第2子」または「第3子以降」の在園児区分になります。

幼児画のよみとり(表紙)

4月、新入園児を門のところで迎える係活動が年長組に誇りと自覚をもたせます。不安げな表情で母さんから離れ、

少し大きなお兄さんお姉さんに手を引かれクラスへ向かいます。今にもこぼれそうに涙を浮かべた男の子をクラスへ送り届け、また係の列に戻った男の子がぼつりと耳元でつぶやきました。「せんせい ぼくも泣いていたことおもいだしちゃったよ」このような感性は生きてゆくために大変重要です。新入園児の涙が一人の男の子をまた少し成長させてくれた瞬間ではないでしょうか？泣いていた園児のお母様はこのようなドラマがあったことを知る由もないと思います。園生活での涙はマイナスのイメージが付きますが、場合によっては人の心に慈雨となつて染み込む事もあるようです。目先の事ばかりに目がいきがちな昨今ですが、「子育ては長い視点でゆつくり」と再度教えられた筆者です。

を集め観察をしてから秋に立派な巣を見せられることをお願いして係活動を終えました。

表紙の絵は5歳児の描いたクモです。保育の中でクモをテーマにし日々の活動を展開する事例は数多くあります。昆虫ならではの不思議な姿と巣を構えて獲物を待ち伏せするドラマチックな生態などが好奇心旺盛な子ども心を離さないからでしょうか。絵を描いたクラスもクモが時々窓から出入りしていたようです。そこで保育者がさりげなく昆虫図鑑を設定して子どもの関心を捉え、クラス全体の話題となったころ、機を見て多色の絵具を用意して遊びに誘いました。地味なクモの体を自由な発想で美しい色に表現する心をいつまでも失わないように願っています。裏表紙も5歳児が多色のサインペンで描いた「エノコログサ」です。クモ同様に自由な色づかいに目がいきがちですが、のびやかで丁寧な筆跡に目を向けてご覧ください。

五感を通して感じた事柄を常識など既成概念にとらわれないことなく自由に表現する幼児画について私たちはもっと学ぶ必要があるようです。

編集後記

四月の入園を迎えるにあたり、保護者の皆さまは、期待と戸惑いをお持ちのことと思います。『よこはまのこども』第三六号は、(社)横浜市幼稚園協会加盟園の先生方による手作りの子育て専門誌です。幼稚園のあるべき姿、大切に考えていること、また園生活の様子などを保護者の皆さまによりわかりやすく伝わるよう、編集を重ね、心をこめて作りました。

子どもを取り巻く社会環境の変化により、子育ての難しい時代といわれています。しかし、幼稚園では一人ひとりの子どもたちが心豊かに育つために、また子どもにとつてうれしい子育てのあり方を保護者の皆さまと一緒を考えていこうと思っています。私たちのメッセージが少しでもお役に立てば幸いです。四月にお会いできるのを楽しみにしております。

最後に、発行にあたりお忙しい中、執筆や編集にご協力いただいた先生方に深く感謝致します。

●全般の企画および主な執筆者●

金子禎・田野岡由紀子・渡邊浩喜・山本正義・越川孝子・菅沼正平・田淵直美・渡井耕平・松村壮一郎・大丸恵三・市川慎二・小泉千恵子・宇津木陶子・上坂よう子・横内博子・小林由里子・渡辺英則・川辺公平・清水純也・安藤直和・小野孝子・木都老克彦・和田嘉明・須藤伊佐夫・浅沼郁子
渡辺久子(特別寄稿)/三澤晴敬(子どもの健康管理) 一順不同・敬称略一

よこはまのこども

第36号

定価280円

- 企画編集 よこはまのこども編集委員会
- 発行日 平成22年10月1日
- 発行者 社団法人 横浜市幼稚園協会
会長 金子 禎
- 発行所 〒221-0055 横浜市神奈川区大野町1-25
横浜ポートサイドプレイス509 アネックス5F
TEL 045-534-8708 FAX 045-453-1120 <http://www.kids-yokohama.or.jp>
- 印刷所 ひかりのくに株式会社